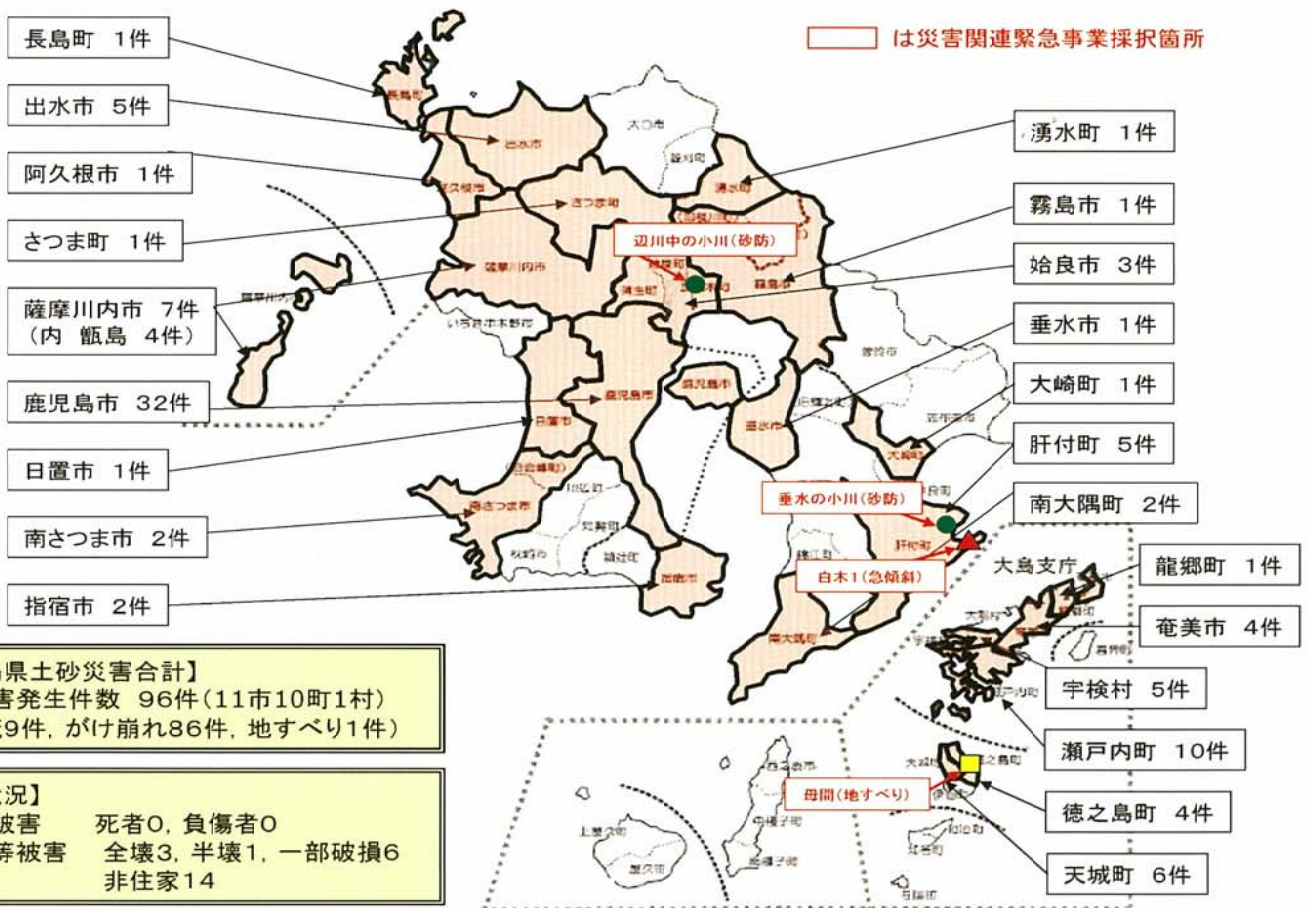




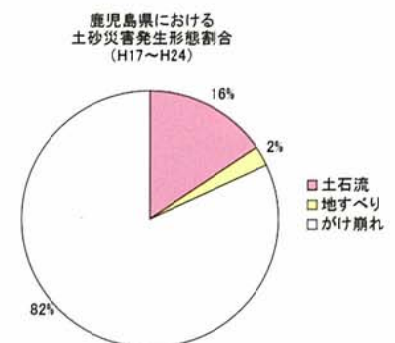
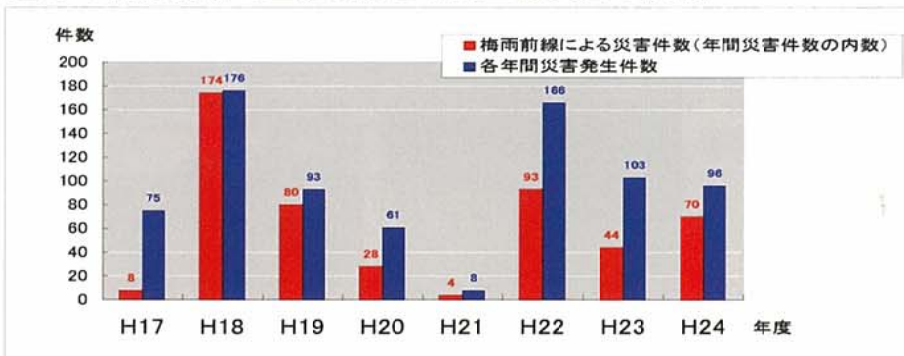
平成24年土砂災害発生状況

平成24年度鹿児島県内では土砂災害が96件発生しました。そのうち梅雨前線豪雨による土砂災害が県本土を中心に70件発生しました。梅雨前線豪雨では肝属郡肝付町で大規模な土石流、がけ崩れが発生しました。幸いにも人的被害はありませんでしたが、家屋全壊3戸、半壊1戸、一部損壊5戸、非住家損壊9戸の被害が発生しました。

平成24年の鹿児島県内の土砂災害発生件数(平成24年12月31日現在)



近年の梅雨前線の土砂災害と年間土砂災害の比較



平成24年の主な土砂災害

●大隅地方梅雨前線による土砂災害

大隅地方では、梅雨前線により平成24年6月23日～28日にかけて記録的豪雨に見舞われ、肝属郡肝付町北方地内では土石流が発生し、非住家全壊1戸、床下土砂流入6戸の被害がありました。また、肝属郡肝付町白木地内ではがけ崩れが発生し、住家2戸全壊、非住家1戸全壊の被害がありました。



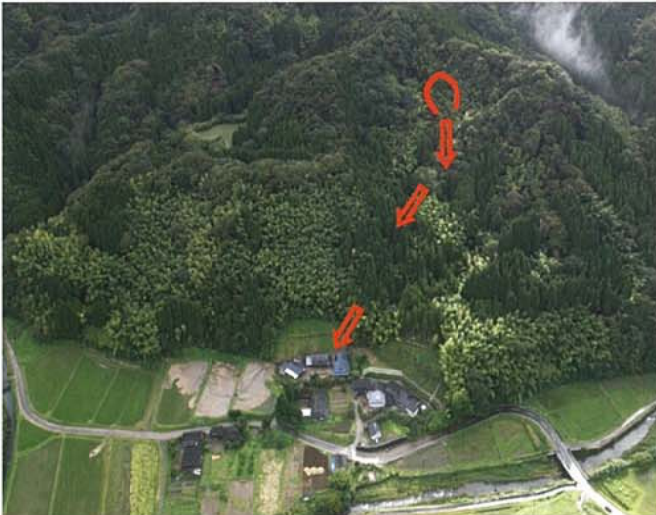
白木1地区(肝付町)がけ崩れ災害



垂水の小川(肝付町)土石流災害

●九州南部梅雨前線豪雨による土砂災害

平成24年7月12日～13日梅雨前線豪雨により始良市加治木町で土石流が発生し、非住家一部損壊1戸、床下土砂流入5戸の被害がありました。



辺川中の小川(始良市)土石流災害

●台風15号の豪雨による土砂災害

平成24年8月25日～27日台風15号の豪雨により大島郡徳之島町で地すべりが発生し、住家、町道、耕地等に被害がありました。



母間地区(徳之島町)地すべり災害

平成24年災害関連事業の対応状況

平成24年は、梅雨前線等による集中豪雨や台風15号により県内の4箇所で大規模な土砂災害が発生し、家屋被害等を受けました。

鹿児島県では、国へ災害関連緊急事業の申請を行い、被災4箇所について、事業採択されました。今後は、速やかに地元への説明を実施し、調査設計や用地取得を進め、早期復旧を推進しています。

発災日	土砂災害形態	被災箇所	事業名	事業採択日	進捗状況
平成25年6月27日	土石流	肝属郡肝付町 垂水の小川	災害関連緊急砂防事業	平成24年9月6日	工事入札準備中
平成25年6月28日	がけ崩れ	肝属郡肝付町 白木1地区	災害関連緊急急傾斜地崩壊対策事業	平成24年9月6日	工事入札準備中
平成25年7月13日	土石流	始良市加治木町 辺川中の小川	災害関連緊急砂防事業	平成24年10月17日	施工中
平成25年8月28日	地すべり	大島郡徳之島町 母間	災害関連緊急地すべり対策事業	平成24年10月22日	工事入札準備中

平成22・23年土砂災害の対応状況

平成22、23年は、梅雨前線等の集中豪雨により奄美地方を中心に鹿児島県内の多くの箇所で大規模な土砂災害が発生し、人的被害や家屋被害を受けました。

災害関連緊急砂防事業、砂防激甚災害対策特別緊急事業(H23～H25)、特定緊急砂防事業(H24～H26)等により早期復旧及び抜本的対策工事を推進しています。

H22年度

県本土

事業名	被災箇所名	進捗状況
災害関連緊急砂防事業	南大隅町 根占山本	完了
災害関連緊急地すべり対策事業	曾於市 中谷	完了

奄美

事業名	被災箇所名	進捗状況
災害関連緊急砂防事業	奄美市外1村 与蓋川外4件	5箇所完了
災害関連緊急急傾斜地崩壊対策事業	奄美市外1町1村 安勝5地区外2件	3箇所完了
災害関連緊急地すべり対策事業	龍郷町 浦6地区	完了

H23年度

県本土

事業名	被災箇所名	進捗状況
砂防激甚災害対策特別緊急事業	南大隅町 根占山本	施工中

奄美

事業名	被災箇所名	進捗状況
災害関連緊急砂防事業	龍郷町外1市1町 加世間沢外5件	5箇所完了、1箇所施工中
災害関連緊急急傾斜地崩壊対策事業	瀬戸内町 三浦地区	完了
災害関連緊急地すべり対策事業	瀬戸内町 西阿室地区	完了
砂防激甚災害対策特別緊急事業	奄美市外1町1村 与蓋川外8件	6箇所施工中、1箇所入札準備中
地すべり激甚災害対策特別緊急事業	龍郷町 浦地区	施工中

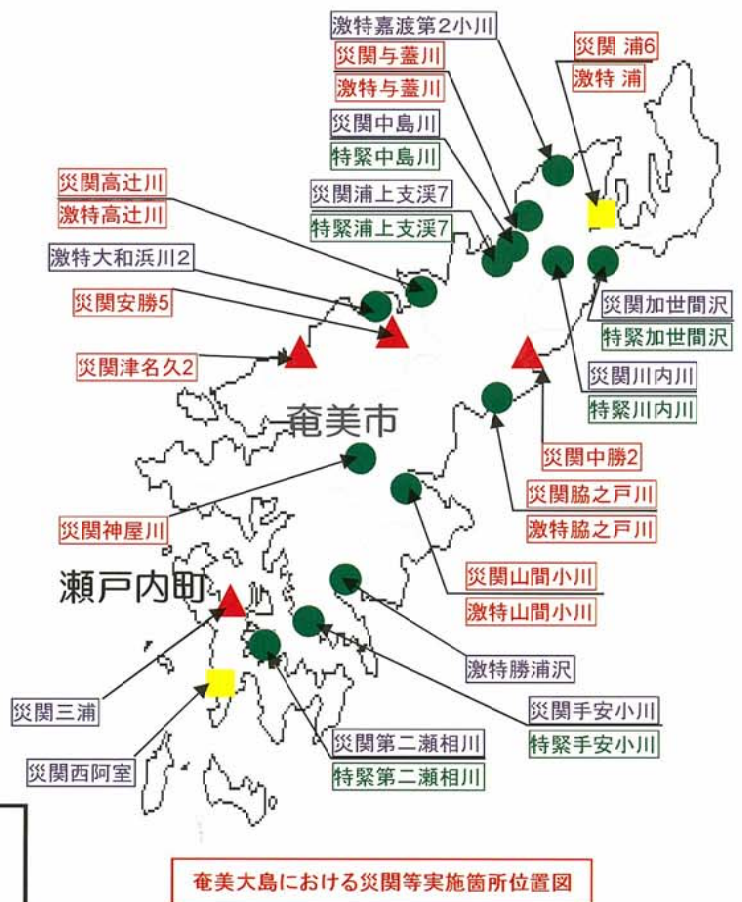
H24年度

奄美

事業名	被災箇所名	進捗状況
特定緊急砂防事業	龍郷町外1市1町 加世間沢外5件	6箇所設計完了、用地取得中

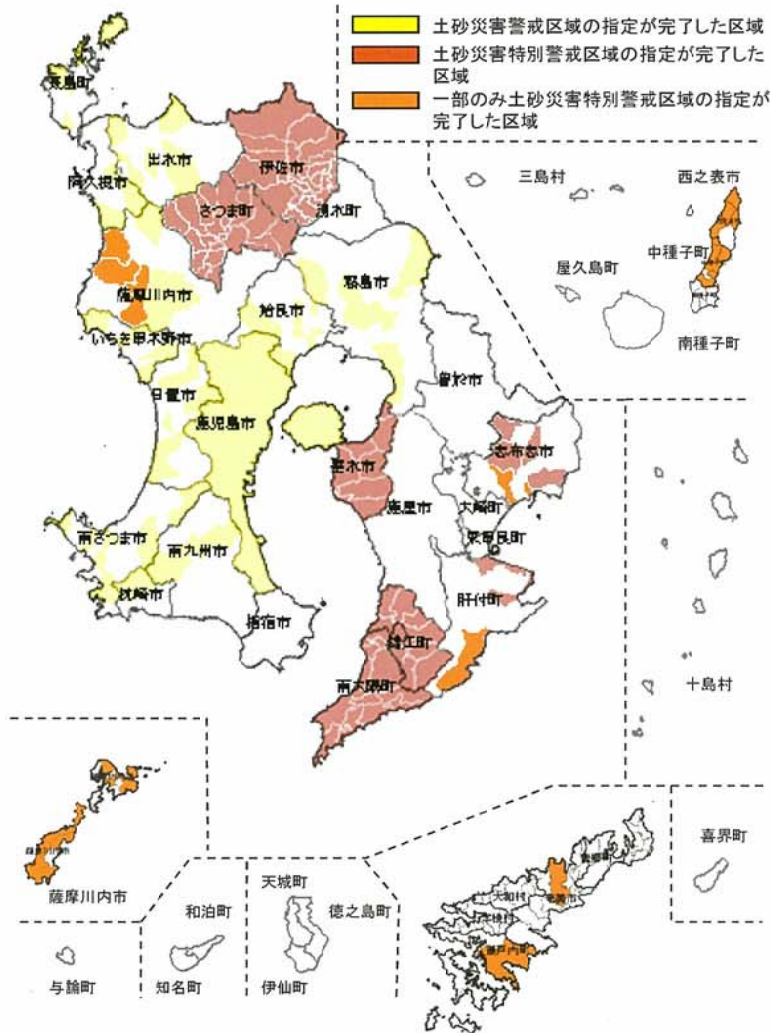
凡例

事業名 箇所名	赤枠: 22災	●: 砂防
	青枠: 23災	▲: 急傾斜
	緑枠: 24フォロー	■: 地すべり



土砂災害警戒区域の指定状況

指定箇所の内訳(平成25年2月8日現在)



●土砂災害警戒区域に指定されると

警戒避難体制の整備(7条)

土砂災害から生命及び身体を守るため、災害情報の伝達や避難が早くできるように警戒避難体制の整備が図られます。

●土砂災害特別警戒区域に指定されると

1. 特定開発行為に対する許可制(9条)

住宅宅地分譲や、老人ホーム・病院などの災害時要援護者関連施設の建築を目的とした開発行為には許可が必要です。

2. 建築物の構造規制(23条)

居室を有する建築物の構造が、想定される衝撃に対し安全かどうか、建築前に建築確認がされます。

3. 建築物の移転及び支援措置(25条)

著しい損壊が生じる恐れのある建築物の所有者等に対し、移転等の勧告が図られ勧告による移転者には融資等の支援措置があります。

【支援措置】

- ・住宅金融支援機構の融資
- ・がけ地近接等危険住宅移転事業による補助

●市町村の役割(警戒避難体制の整備)

- 1 市町村地域防災計画に、土砂災害を防止するために必要な警戒避難体制に関する事項について定める。(7条1項)
- 2 土砂災害に関する情報の災害時要援護者施設への伝達方法を定める。(7条2項)
- 3 ハザードマップ作成等の措置を講じる。(7条3項)

●県の役割(市町村の支援)

- 1 土砂災害警戒区域等を指定する。
- 2 土砂災害警戒情報、雨量情報等を発信する。

鹿児島県における土砂災害警戒区域等の指定状況

市町村名	平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		合計	
	警戒区域	うち特別	警戒区域	うち特別	警戒区域	うち特別	警戒区域	うち特別	警戒区域	うち特別	警戒区域	うち特別	警戒区域	うち特別	警戒区域	うち特別	警戒区域	うち特別	警戒区域	うち特別
日置市	480	0																	480	0
霧島市	787	0													9	9			796	9
いちき串木野市	243	0																	243	0
南さつま市	162	0	83	0	243	0									15	14			503	14
姶良市	306	0																	306	0
鹿児島市			301	0					2,966	0									3,267	0
枕崎市			24	0	116	0									6	6			146	6
阿久根市			195	0	204	0											11	6	410	6
出水市			164	0	166	0											2	2	332	2
薩摩川内市			614	0	5	0									18	11	429	387	1,066	398
南九州市			13	0	220	0									6	5			239	5
長島町					271	0													271	0
垂水市(H20完)					49	42	137	105	165	142									351	282
錦江町(H21完)					154	150	29	28	51	48	83	80							317	306
南大隅町(H21完)									279	253	197	173							476	423
さつま町(H23完)											400	378	400	372	609	558			1,409	1,308
伊佐市(H23完)											302	288	257	253	154	145			713	686
肝付町													72	69	84	71			156	140
西之表市															113	104			113	104
指宿市															13	8			13	8
屋久島町															12	9			12	9
鹿屋市															16	14			16	14
曾於市															6	6			6	6
大崎町															1	1			1	1
志布志市															150	146	86	82	236	228
奄美市															121	114			121	114
瀬戸内町															4	2	37	25	41	27
徳之島町															4	4			4	4
中種子町																	65	58	65	58
天城町																	6	5	6	5
合計(30市町)	1,978(5市)	0	1,394(7市)	0	1,428(9市町)	192(2市町)	166(2市町)	133(2市町)	3,461(4市町)	443(3市町)	982(4市町)	919(4市町)	729(3市町)	694(3市町)	1,341(18市町)	1,217(18市町)	636(7市町)	565(7市町)	12,115(30市町)	4,163(25市町)

平成24年度防災教育の推進(実績)

県では、土砂災害に関する知識等を後生・次世代に伝承し、災害時に迅速、的確な避難行動がとれるよう、各振興局において管内の小学校を訪問し、出前講座や現場見学会を開催しています。
出前講座修了後には、クイズ形式による検定などを行い、一人ひとりに『県土砂災害ジュニアマスター認定書』を交付しています。

砂防読本を活用した出前講座・現場見学会実績

平成24年度実績(H25.2 月末現在)

実施日	振興局等	学校名	学年	参加人数	現場見学会
H24.6.13	沖永良部	和泊町立国頭小学校	6年生	18人	
H24.6.18	大島	龍郷町立赤徳小学校	6年生	17人	
H24.6.20	北薩	さつま町立山崎小学校	5年生	15人	現場見学会実施
H24.7.3	屋久島	屋久島町立永田小学校	3～6年生	28人	
H24.7.5	大島	奄美市立崎原小中学校	小1～中3	11人	
H24.7.6	大島	大和村立名音小学校	1～6年生	7人	
H24.7.6	北薩	薩摩川内市立大妻小学校	5年生	13人	現場見学会実施
H24.7.31	瀬戸内	宇検村内の小学校	3～6年生	14人	現場見学会実施
H24.8.2	瀬戸内	瀬戸内町内の小学校	5～6年生	19人	現場見学会実施
H24.8.3	鹿児島	鹿児島市立南方小学校	5・6年生	23人	現場見学会実施
H24.10.3	大島	奄美市立朝日小学校	5年生	119人	現場見学会実施
H24.10.30	始良・伊佐	始良市立加治木小学校	5年	65人	
H24.11.7	始良・伊佐	始良市立錦江小学校	5年	49人	

出前講座・現場見学会の様子



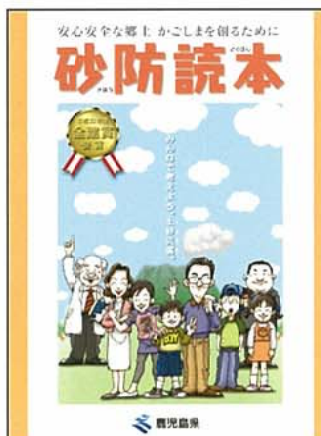
山崎小学校(さつま町)【H24.6.27】



崎原小学校(奄美市)【H24.7.5】



古仁屋13地区現場見学会【H24.7.5】



「土砂災害ジュニアマスター認定書」

出前講座終了後に、クイズ形式の検定などを行い、一人ひとりに「県土砂災害ジュニアマスター認定書」が贈られました。

平成24年度土砂災害防止に関する絵画・作文の受賞作品・受賞者

国土交通省と鹿児島県では、毎年6月を『土砂災害防止月間』と定め、その一環として次世代を担う小中学生を対象に『土砂災害防止に関する絵画・作文』を募集しています。

平成24年度は県下59の小・中学校から178点の作品の応募があり、絵画部門で山本さんが国土交通大臣賞、藤元さんが国土交通省事務次官賞を受賞し、作文部門で森さんと大坪さんが国土交通省事務次官賞を受賞しました。

絵画部門

小学生	鹿児島県知事表彰 最優秀賞	南大隅町立 神山小学校 6年	脇 莉音
	鹿児島県知事表彰 優秀賞	鹿児島市立 玉江小学校 5年	有馬 康平
		鹿児島市立 武小学校 3年	山之内 究
中学生	国土交通大臣賞	鹿児島市立 星峯中学校 2年	山本 日向
	国土交通省 事務次官賞	枕崎市立 枕崎中学校 2年	藤元 樹里
	鹿児島県知事表彰 最優秀賞	指宿市立 南指宿中学校 3年	杖谷 萌香
		奄美市立 朝日中学校 3年	里 圭太
	鹿児島県知事表彰 優秀賞	鹿児島市立 坂元中学校 3年	山下 美咲

作文部門

小学生	国土交通省 事務次官賞	薩摩川内市立 長浜小学校 1年	森 遥臣
	鹿児島県知事表彰 最優秀賞	鹿児島市立 紫原小学校 5年	濱田 禎時
		鹿児島市立 紫原小学校 6年	成尾 結
中学生	鹿児島県知事表彰 優秀賞	奄美市立 朝日小学校 4年	中尾 聡志
	国土交通省 事務次官賞	鹿児島市立 鹿児島玉龍中学校 1年	大坪 奏祐
	鹿児島県知事表彰 最優秀賞	霧島市立 霧島中学校 3年	崎山 真菜
		薩摩川内市立 祁答院中学校 2年	若杉 里紗
	鹿児島県知事表彰 優秀賞	鹿児島純心女子 中学校 1年	東 彩花

国土交通大臣賞



鹿児島市立 星峯中学校 2年 山本 日向



国土交通大臣賞の受賞の様子
(星峯中学校にて)

事務次官賞



枕崎市立 枕崎中学校 2年 藤元 樹里

鹿児島県知事表彰 最優秀賞



南大隅町立
神山小学校 6年
脇 莉音



指宿市立
南指宿中学校 3年
杖谷 萌香

事務次官賞

『どしゃくずれ』

薩摩川内市立長浜小学校 1年 森 遥臣

6がつ21にちは、おとうさんのたんじょうびでした。でも、せっかくのケーキもたべることは、できませんでした。

そのひ、ぼくが、がっこうからかえるとき、いえのすぐちかくのがけが、くずれていました。そこに、おねえちゃんといっしょにつくったちいさなひみつきちも、くずれていました。木やはっぱやいしが、ごろごろとこころがっていました。ぼくは、おもわずこわくなって、すぐいえのなかにはいりました。そして、おかあさんを見て、ほっとしました。おかあさんは、

「はるが、とおっているときに、くずれなくてよかった。」
と、なんかいもいってくれました。

でも、そのあとも、あめがつよいしゃわあみたいに、じゃばじゃばとふっていたから、みんなでしょうがっこうにとまることになりました。ねるとき、マットのうへは、かたくていたくてびっくりしました。よるのしょうがっこうは、おうちよりくらかったので、こわくてすぐにはねむれませんでした。だから、あさおきたら、おとうさんにだっこしてもらって、おうちにかえって、またすぐにねました。

つぎのひから、しょうがっこうにいくときは、とおまわりになるほどうきょうを、わたることになりました。おとうさんが、

「また、くずれてくるかもしれないから、ひとりでとおったら、だめだよ。」
と、いってくれました。

それから、まいにち、くずれたところを「いやだな。」とおもいながらみました。「もう、くずれませんように。」といのりながら。

いまは、どしゃくずれがあったところも、ひとりでもおってもいいです。でも、もしまたたくさんのあめがふったら、おとうさんとのおやくそくを、ぼくは、かならずまもります。
「らいねんは、おとうさんのたんじょうかいが、できたらいいな。」

『自分の命は自分で守れるように』

鹿児島市立鹿児島玉龍中学校 1年 大坪 奏祐

「雨が激しく、JRが止まりそうだから、生徒は下校してください。」

それは、家庭科の授業をしている時だった。担当じゃない先生が来て、言ったことだ。ぼくは、その言葉を聞いて、驚き、外を見ると確かに激しい雨が降り続いていた。

鹿児島は、毎年梅雨には、大雨になることが多く、今年、6月21日も、朝から大雨となっていた。ぼくの学校は、ほとんどの人が、鹿児島市内のあらゆる場所から、JRやバスを使って通学しているので、授業が打ち切りとなった。この日、鹿児島市では、降り始めからの雨量が二百ミリを超え、一部住民に、避難勧告が出たり、実際に、JRが運休したり、鹿児島県内は、交通の乱れが相次いでいた。JRで通学をしている友人は、心配そうにしていたが、運休する前に、下校することができた。

今年、鹿児島は、6月下旬も、大雨が降り続き、ぼくの学校の近くの稲荷町では、裏山が崩れ、土砂が、民家にまで迫る災害が発生した。また、屋久島では、短時間で記録的な大雨が降ったり、奄美大島では、豪雨が度重なったり、南大隅でがけ崩れによる土砂災害が多く発生した。鹿児島は、四十七都道府県の中でも、土砂災害が数多く発生している。

その中でも、がけ崩れと土石流の発生が多い。がけ崩れが多いのは、鹿児島の台地が、シラスでできていることと関係がある。土石流が多いのは、桜島や霧島などの火山が多いからである。昨年、鹿児島県内では、百三件の土砂災害が発生し、死者も一人でた。雨がやんでから土砂災害が発生することも多い。ぼくは、自分の身の周りで、さまざまな土砂災害があると思うだけで恐ろしいというのに、死者がでたと知ると、とても恐ろしく感じた。自然の力には、人間の力では、とてもかなわないことを、実感した。

土砂災害に巻き込まれないために、ぼくは三つのことを考えた。一つ目は、大雨に関する情報を、一早く知ることである。そのためには、天気予報やニュースを、日ごろから、よく確かめていくことが必要である。気象台が発表する大雨の予想に関心をもって情報を得ることが大切である。土砂災害警戒情報は、気象台と県が共同で発表している。実際に降った雨がどれくらい地面の中に含まれているかや、今後どれくらいの雨が予想されるかなどの雨量データを注意深く検討している。過去に実際、どれくらいの大雨で土砂災害が起きたかなどの関係を検討し、土砂災害の危険性が高まった時に市町村ごとに発表されるものである。今年の梅雨でも、土砂災害警戒情報は、度々発表されていた。ぼくは、気象に関する警戒情報を聞いた時には、自分のいる場所の近くではないか、何が起きているのかなどを確認し、場合によっては、少しでも早く避難できるようにしていきたい。

二つ目は、避難の仕方を前もってよく考えることである。どこへ避難するかを知っておき、学校の先生や地域の人の指示をしっかりと聞くことが大切である。また、準備する物を早めに準備しておいたり、早めの行動を心がけたりする。特に、鹿児島は高齢者も多いので、地域で声をかけ合うことも大切である。ふだん、学校で学んでいる避難訓練が、土砂災害が発生した場合にも、生かされるように、訓練でも真剣に取り組んでいきたい。

三つ目は、自分の命は自分で守ることである。増水した川やがけなど危険な場所には、絶対に近よらない。また、がけから石ころが転がってきたり、水が流れ出しているなどの、がけ崩れの前兆現象を見かけたら、すぐその場を離れ、大人の人に伝えることが、大切である。ぼくは、がけ崩れの前兆現象を見かけたことはないけど、見かけた時には、土砂災害の発生を第一に考え、自分の命は自分で守る行動ができるようになりたい。

最近、地球温暖化が進み、集中豪雨が増えているとのことだ。土砂災害は、街の中でも発生する。また、鹿児島は、大雨の他に、台風や竜巻による災害も多い地域である。地震や津波などの災害も予想される。だから、大雨などの気象現象の発生の原因について学んでいきたい。また、人の命を守るために、正しい情報を一早く知ったり、早めの避難を心がけることは、本当に大切なことだと思う。

鹿児島県知事表彰 最優秀賞

『九州北部ごう雨災害』

鹿児島市立紫原小学校 5年 濱田 禎時

今年、九州北部でものすごい大雨がふりました。土砂くずれ、川のはんらん、てい防のけっかいなどにより、家が流されたり、家が水につかってしまったりという被害がありました。

テレビでは、気象予報士の人が、「これまでに経験したことのない大雨。」と、表現していました。

テレビでは、この九州北部ごう雨災害の様子がたくさん映っていました。ぼくはその映像を見るたび、「こわい。」という思いが大きくなりました。

鹿児島でもずっと雨が続き、そっこうから水があふれたり、かみなりがたくさん鳴ったりしていました。かみなりの音はものすごく大きな音で、とてもびっくりしました。学校では、帰る間際に大雨とかみなりがあったので、きゅうきょ、雨が弱まってから集団下校をすることもありました。

ぼくの家近くの、JRの駅近くのがけでは、小さな土砂くずれが起きていました。そのがけの近くは、落石防護さくが作られています。このがけは、土砂くずれが起りやすいので、いつ大きな土砂くずれが起きるか心配です。

雨の力はすごいと思います。ぼくのひいおじいちゃんの畑では、しいたけを大きな木の上で栽培しています。しいたけを植える木は、とても重く、運ぶときは四分の一の大きさでもけっこう重くて、けてもびくともしませんでした。でも、この間の雨で、根っこごと、土といっしょに下まで流されていました。

雨だけでなく、やはり、自然の力は計り知れないと思います。

ぼくは、雨について少し調べてみました。一時間に五十ミリほどの雨がふると、周りの声が聞こえなくなり、雨の音の聞こえ方は、バケツの水をひっくり返したような音だということが分かりました。一時間に百ミリほどの雨がふると、周りのけしきが見えなくなり、土砂くずれなどの災害が起きやすくなるそうです。

テレビで、道路が通行止めになり、ひなんすることができずに、こ立している集落があることが報じられていました。

ぼくは、道路が交通止めになってこ立集落になったら、どんなことが起こるのか考えてみました。

もし停電になれば、夏はクーラーやせん風機が使えず、とても暑い思いをすと思います。冬なら暖ぼう器具がいっさい使えなくて、とても寒い思いをすることになると思います。

水道もでなくなるでしょう。そうなれば、飲み水もなくなり、体も洗うことができないと思います。

道路は通行止めになってしまうので、買い物にも行けません。つまり、食べるものもない状態があるかもしれません。

そして、一番心配なのが、いつまたたくさん雨がふるか、土砂くずれが起こるかという不安とたたかい続けなければならないということです。雨が続いていけば、山は水を大量にふくみ、土砂くずれしやすくなってしまいます。

今回の九州北部ごう雨災害や東日本大震災のことを、くわしく知れば知るほど、自然の力のすごさを感じ、それと同時に、人間は自然にはげったいに勝てないとあらためて思いました。

ぼくが住む鹿児島でも、いつ災害がおきるか分かりません。ぼくが今できることは、学校での避難訓練を真げんに取り組んだり、家で、地しんが起きたら、どのように行動するか家族で話し合ったりすることだと思います。心構えがあれば、被害も少なくすむと思うので、これからも、自分にできることを考えておきたいです。

『自然の力』

霧島市立霧島中学校 3年 崎山 真菜

激しく唸るような雷鳴。異常なほど強い雨音。私はその音で飛び起きた。まだ夜中だった。こんなに強い雷や雨は滅多にないからだ。この雷も雨も絶対にただでは終わらない。被害がでる。そう思った時、稲光とともに、雷鳴が轟いた。近くに落ちたというような、とてつもなく大きな音だった。今でも忘れることのできない出来事が始まった。

鳴り続ける雷と、降り続ける大雨の音は、恐ろしく、私の心を震えあがらせた。こんなにも雷と雨が怖いと思ったことはなかった。しばらくして、雷が収まり始めたころ、まだやみそうもない大雨の音に混じり、ゴゴゴッという何か大きなものが動くような音がした。近くで何かあったのか。まさか家のどこかが。そんな不安に駆られて、一階へ降りてみたら、父も母も祖母も全員起きていて、外をじっと見ていた。私も外に目をやると、家の庭はまるで湖のように水であふれていた。排水口は流れてきた草でふさがれて、水は行き場を失い、庭にとどまり湖を作っていた。そして、目を上げた瞬間、信じられない光景が飛び込んできた。昨日までは確かにあった、庭の向こうの建物が完全になくなっていたのだ。土砂崩れによって建物は崩れたのだ。そして、さっきのゴゴゴッという音は、前の建物が地面とともに崩れていった音だった。それを知った時、自然というものの恐怖に襲われた。それほど自然が恐ろしいものだと思っていなかったからだ。そんな気持ちを抑え、私たちは雨合羽を着て、排水口の草を取ったり、土のうをもらって流れてくる水をせきとめたりした。

無事水も排水口に流れ、湖が庭に戻りつつあったころ、もう朝の六時になっていた。テレビをつけると、夜中の出来事が報道されていた。霧島のいたるところが豪雨の被害に遭い、死者まで出たそうだ。どの番組も「記録的豪雨」と伝えていた。

昼過ぎ、雨が弱まってきたので、被害現場を見に行くことにした。間近でその光景を見てみると、崩れたところは巨大な怪物が何かでえぐったようになっていた。自然の力は、底冷えするような恐ろしさがあるんだなとその時、実感した。

あれから一年が経ったころ、土砂崩れの場所はあの時のままだった。しかし、そこには早くも植物の新たな命が芽生え、緑豊かな場所になりつつあった。自然のもう一つの優しい力だと思った。そこはもともと祖母の持つ土地だった。そこを見る度に、あの日のことを思い出す。災害のことを風化させるのもよくないことだが、毎日目にするのも辛い。だからきれいに整地することになった。工事は一ヶ月半で終わった。かつてそこで土砂崩れがあったとは思えない仕上がりだった。ただせっかく芽生えた植物が重機によって潰されていくのを見るのは辛かった。それからまた一年経ち、今日に至っている。その場所には再び草が生え、青々とした夏の草花たちが私を楽しませてくれる。この場所がまた緑豊かな自然の力が息づく場所となってくれたことが、素直に嬉しい。

自然は時には、恐ろしい力を私たちに見せつける。しかし、いつもは優しい力で私たちの心を癒してくれる。

その自然を私たちは、自分の都合のいいように変えようとしてしまう。そのつけが今、回ってきているのではないだろうか。快適な生活を求める余り、地球温暖化を促進させ、地表気温が上昇し積乱雲を作り出す。そして豪雨が発生する。現在、豪雨に耐えきる山は少なくなってきている。だから土砂崩れが起きるのだ。最悪の場合、命を落としてしまう。

自然の力には、到底人間の力は及ばない。それは、過去の災害で痛いほど分かっている。しかし、人間は未だに自然を思いのままにしようとする。確かに誰だって、快適な生活を送りたいはずだ。しかし、そればかり追求すると、自然から思わぬしっぺ返しを受ける。そうならないためにも、私たちは自然と共存する生き方を選ばなければならないのだ。そのためにも、今回の経験を風化させてはならないのだ。土砂崩れの場所はきれいになったが、だからといってあの時の恐怖がなくなったわけではない。自然の恐ろしさを実際に体験した私たちが、肝に銘じて日々の生活を送っていかなければならない。

今回の集中豪雨で自然の底冷えするくらい恐ろしい力を思い知った。そして自然の持つ優しい力も見せてもらった。この二つの自然の力が大きすぎず、少なすぎず、絶妙なバランスをとることで、私たちは生きていける。自然と私たち人間は、つながりあってしか暮らしていけない。二つの力を持つ自然を受け入れ、これからも共に生きていくことが大切だと思う。

NPO鹿児島砂防ボランティア協会による砂防技術講習会

平成25年1月17日(木)「ホテルウェルビュー鹿児島」にて、NPO法人鹿児島砂防ボランティア協会主催(後援:鹿児島県・鹿児島県市町村社会基盤整備促進協議会)の「平成24年度砂防技術研修会」が開催され、協会会員、県及び市町村職員など約120名が参加しました。

この研修会は、砂防ボランティア協会の会員がこれまでの経験・技術力を活かし実施している砂防施設等の巡視点検・周辺住民への啓発活動などの更なる技術研鑽を図ろうと、平成20年から毎年開催されています。

研修プログラム

- 主催者挨拶 NPO法人 鹿児島砂防ボランティア協会理事長 平山 弘
- 来賓挨拶 国土交通省大隅河川国道事務所 大坂 剛
- 技術講話1「深層崩壊の予測に関する最新情報」
鹿児島大学農学部准教授 地頭 隆
- 技術講話2「土砂災害から命を守るために」
(財)砂防地すべり技術センター研究顧問(前理事長)
政策研究大学院大学 特任教授 池谷 浩
- 行政報告「桜島砂防の現状について」
国土交通省大隅河川国道事務所 大坂 剛
「最近の砂防行政を取り巻く話題」
鹿児島県土木部砂防課長 植野 利康



鹿児島砂防ボランティア協会に 現地調査用車両「宝くじ号」が配備されました！

平成24年11月2日にNPO法人鹿児島砂防ボランティア協会に土砂災害及び溪流・斜面・砂防設備状況調査用車両「宝くじ号」が配備されました。

車両は、日本宝くじ協会の社会貢献広報事業の予算を活用して、(一財)砂防フロンティア整備推進機構が各地域の砂防ボランティアへ配備しているものです。

土砂災害における現地調査や砂防設備等の維持点検に係る調査並びに防災訓練など、砂防関係行事への参加及び土砂災害等活動のために使用されます。

平成24年度は全国に10台配備される予定で、そのうちの1台が本協会へ配備されました。配備後すでに点検や防災研修活動に活躍しています。どこかで「宝くじ号」を見かけたら応援お願いいたします。

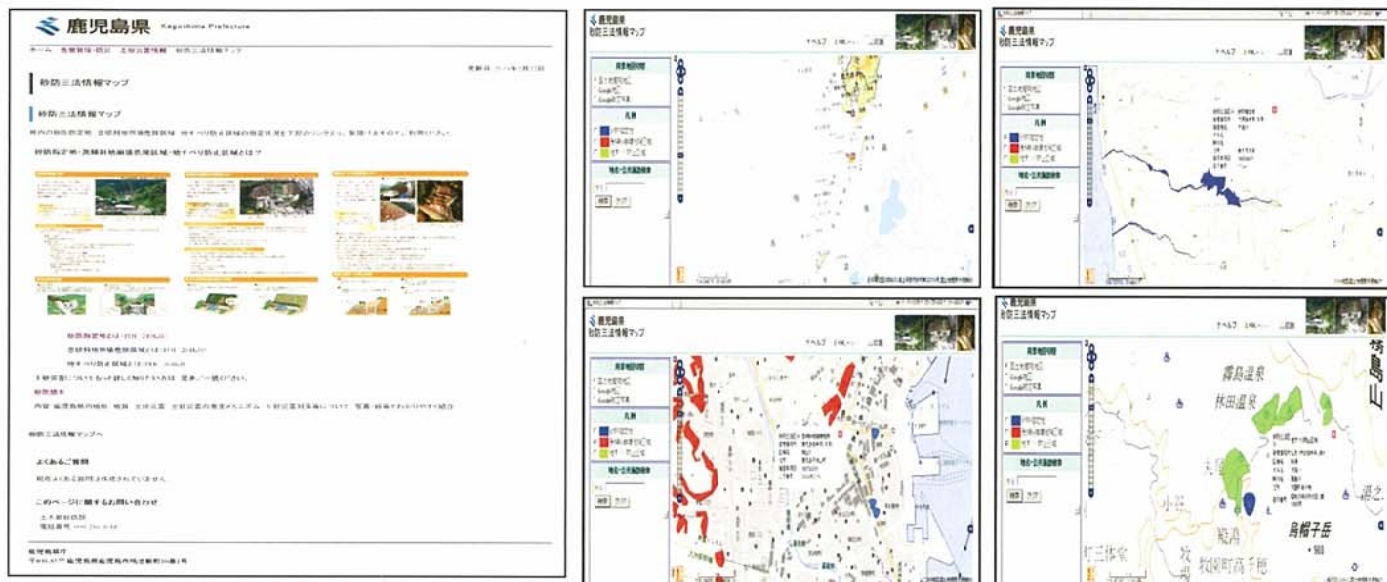


砂防三法情報マップ

鹿児島県土木部砂防課では、県内の砂防指定地、急傾斜地危険区域、地すべり防止区域の砂防三法の指定状況を鹿児島県のホームページで一般公開することとなりました。

これまで砂防三法の指定状況は、県の振興局等の窓口でしか確認できなかったことから、多くの方々へ不便をかけておりましたが、ホームページで一般公開することで、迅速に砂防三法の指定状況の情報提供と周知を図ることができ、円滑な行政サービスができるようになります。

なお、鹿児島県のホームページでの一般公開は、平成25年3月1日より開始しました。



砂防三法情報マップのアクセス方法

鹿児島県ホームページ → 危機管理・防災 → 土砂災害情報 → 砂防三法情報マップ
 URL: <http://www.pref.kagoshima.jp/bosai/dosya/index.html>

注) パソコンのWebブラウザのバージョンによっては閲覧できない場合がありますので、利用規約の内容を確認の上、ご利用下さい。

平成24年度優良工事紹介(砂防関係工事)

鹿児島県土木部では、建設工事に従事する企業や建設技術者の技術の向上・社会的評価を高めること等を目的として、他工事の模範となる優良な建設工事、建設工事に従事し、他の技術者の模範となる優秀な技術者を表彰しているところであります。

今年度は、優良工事は10件(12社)あり、そのうち砂防関係工事が3件(3社)が表彰されました。

また、優秀技術者は5名でしたが、砂防関係工事での表彰はありませんでした。

砂防工事



工事名: 砂防激甚災害対策特別緊急工事
 (船石川(2)工区)
 工事箇所: 肝属郡南大隅町根占山本地区

砂防工事



工事名: 火山砂防工事(牛尾川工区)
 工事箇所: 伊佐市大口牛尾地区

急傾斜地崩壊対策工事



工事名: 総合流域防災(急傾斜)工事
 (西町地区)
 工事箇所: 西之表市西町地区

『土砂災害防止の集い2013』開催のお知らせ

近年発生した土砂災害を振り返り、その実態・対応状況・今後の取り組み等についての基調講演や土砂災害体験等による避難対策等の事例発表などを行います。

これからの防災を考える貴重な機会です。参加費は無料です。是非ご参加ください。

CPD・CPDS登録講習

■日 時 ■ 平成25年4月25日(木) 13:30～16:00
■会 場 ■ 市町村自治会館 4階ホール(鹿児島市鴨池新町7-4(県庁前))

●プログラム●

★基調講演 その1 (13:40～14:15)

「平成24年7月九州豪雨災害
～被害状況と対応、今後の課題～」

佐藤 義興 熊本県阿蘇市長

★基調講演 その2 (14:15～14:50)

「H5鹿児島豪雨土砂災害を振り返って」

板垣 治 元鹿児島県砂防課長

「災害を振り返って
～わがまちの防災対策～」 (15:00～16:00)

永野 和行 肝付町長
中村 孝 霧島市副市長

「平成24年7月九州豪雨災害
～被害状況と対応、今後の課題～」

佐藤 義興 熊本県阿蘇市長

～これまでに経験したことのない豪雨は、容赦なく阿蘇カルデラを襲い阿蘇の火山灰土に浸透、各所で山腹崩壊を引き起こし未曾有の被害をもたらしました。土砂災害防止・軽減化の重要性について講演を行っていただきます。～



「H5鹿児島豪雨土砂災害を振り返って」

板垣 治 元鹿児島県砂防課長

～20年前、鹿児島県で発生した約3ヶ月に及んだ戦後最大級の土砂災害の被災実態、対応、教訓、そして今感じていること等について講演を行っていただきます。～



【編集後記】

今年度最後の砂防メールとなりますが、関係者の皆様には本県砂防行政に係る情報発信に務めてきましたが、今後も更なる内容の充実を努めたいと考えております。

さて、本県の平成24年度は、平成22年・23年に比べ穏やかな1年であったと思っておりますが、九州北部豪雨災害の発生など自然の猛威は、ますます激しくなっています。

奇しくも平成25年は、平成5年の鹿児島豪雨災害から20年を経過します。災害に対する記憶の風化が心配です。災害への備えを怠りなく、「正常化の偏見」を払拭し、安心・安全な郷土づくりのため、これからも砂防行政の推進に取り組んでいきましょう。

(編集長 技術補佐 T・H)

ご意見・ご感想お寄せ下さい

TEL:099-286-3618 FAX:099-286-5627

E-MAIL: sabou@pref.kagoshima.lg.jp

鹿児島県ホームページ: <http://www.pref.kagoshima.jp>

土砂災害発生予測情報システムホームページ: <http://www.doboku-bousai.pref.kagoshima.jp>

“みんなで防ごう土砂災害”